（様式２）

報　　告　　書

令和５年２月２２日

岡山県議会議長　加藤　浩久　　殿

議員氏名　　蓮岡　靖之
（署名または記名押印）

派　遣　の　概　要　は　次　の　と　お　り　で　し　た　。

１　目　　的　　（議員派遣申請書の「目的」欄と同じ内容）
① 農林水産省での農業農村整備事業研修会
② こども家庭庁創設にあたっての概要説明（内閣官房　こども家庭庁設立準備室）
２　派遣場所　　（議員派遣申請書の「派遣場所」欄と同じ内容）
① １月 19 日：農林水産省（農林水産省農村振興局第２会議室）
東京都千代田区霞が関１－２－１
② １月 20 日：衆議院第一議員会館　地下１階・第５会議室
東京都千代田区永田町２－１－１
３　派遣期間　　令和５年１月 19 日　～　令和５年１月 20 日
（議員派遣申請書の「派遣期間」欄と同じ内容）

【 報告事項 】　別紙に記入される場合は、「別紙のとおり」として、添付してください。

① １月１９日　農林水産省
概要　令和５年度　農業農村整備事業関係予算（概要）
〈重点事項〉
―土地改良について
・畑地化を推進する。コメの需要減に合わせて、水田から畑への転換に必要な整備事業を行っていく。農道の整備や排水の改良やパイプライン化。
・土地の最適利用の推進。広域的に耕作に適した場所と効率的な耕作に適さない場所を分け管理・利用していく。耕作に適さない場所は粗放的な管理を行いながら農用地を保全する。
―畑地化について
・米の需要に合わせて、麦、大豆、花き、果樹への転換を支援する。
・高収益作物以外の麦や大豆にも手厚く支援を行う。
・米粉は生産、加工、新製品の開発を一貫して支援。

所感　毎年恒例となっている農業農村整備事業に係る研修会。新年度予算の中で主に土地改良事業関連についての説明を受けた。その後、質疑も行われたが主に米作り

農家支援や、ため池整備の方向性、燃油・飼料価格の高騰など苦しい現状を反映しての内容となった。ここでいつも思うことは大変難しい岐路にある、我が国農業ですが、その崖っぷちともいえる状況にありながら、国の対応はまったく現場感が欠如しており真剣さが足らないところである。食料自給率を上げる話も他人事のようであった。現在では土地の線引きを見直す自治体も出てきている昨今、いつまでもJAを中心とした総花的な予算付けでは、この難局は乗り越えられないと思った。翻って、岡山県農政についても同様の状況ではあるが、県として国の言いなりの対応ではなく、県独自の目線で農家のみなさんが本当に助かるような施策を模索するべきだと考える。この研修会も今後一考の余地は十分ある。

② １月２０日　衆議院第一議員会館
内閣官房　こども家庭庁設立準備室
企画官　岩崎　林太郎氏

概要　子ども家庭庁の取り組みについて～設置の目的及び取組状況～
- 令和３年から設置検討開始　令和５年こども家庭庁設置予定
- 内閣府・文部科学省・厚生労働省から事務が移管され、文科省・厚労省と連携をし総合調整機関としての役割を果たす。
- 司令塔、育成部門、支援部門の３部門体制
- 都道府県はこども計画を策定する。こども・若者に関する既存の計画をまとめる計画となる予定。
- 包括的支援（結婚前から１８歳以降まで）
- いじめや不登校は文科省が対応するが、こども家庭庁も積極的に関わる。準備室には文科省からも多くの職員がきて連携している。
- 令和５年度当初予算案は４．８兆円の予定。幼稚園や保育園の運営費や給付金など、予算規模のおおきな施策を抱える。

所感　本年４月からの新しい組織ということで、研修内容に選んだが、その詳細はまだまだ明らかになってないようであった。予算は大幅に増えるようだが、未だに文科省と厚労省との役割分担があり、意気消沈の感。県においても、「こども計画」なるものを策定せよとのこと。その際には、国のしばりによることなく県独自の目線満載の内容にしなければならないと思う。

・調査にあたってのねらい、調査内容、考察、今後の取組等を中心に作成されている例が多く見られます。
・調査内容を補完するような資料がある場合は添付してください。